

自分らしく過ごせるまちを目指して

気持ちがつながる つながる会

求められる地域の医療

これから迎える超高齢時代に向けて、地域の医療機関同士が互いに連携し合い、病院が変わっても自宅に帰っても、変わらず同じ医療を受け続けられる環境が求められています。

そんな中、市内の医療機関が施設の枠を超えて連携するため、平成27年に「磐田市・森町の病院・訪問看護ステーションの看護代表者がつながる会」と「磐田市・森町の病院薬剤師がつながる会」が発足しました。

つながる会の目的

地域で完結する医療体制のために

- 顔の見える関係をつくろう
- 課題を共有しよう
- 施設の役割や機能を知ろう
- 課題解決に向けて対策を検討しよう
- 薬剤管理の問題点を話し合おう

つながる会って？

つながる会には、磐田市と森町にある病院、診療所、訪問看護ステーション、デイサービス事業所など約20の施設が参加しています。

活動の初年度はお互いを知ることからスタートしました。施設紹介から始まり、各施設で抱えている課題の共有などを重ねて交流を深めていきました。

2年目からは、互いの施設を行き来する人事交流研修を実施するなど、信頼・連携を強化し、患者の病歴や治療などの情報が書かれた看護サマリーといった書式の統一化などの具体的な課題解決へ向けて活動を始めています。

自分らしく過ごせるまちへ

医療機関同士の連携は、地域の暮らしやすさにつながります。生活の場が変わる度に一から始まるのではなく、その人に合った生活を続けていける環境をずっと地域でつくらなければなりません。

つながる会は地域に住む人々が、自分らしく過ごせるまちを目指して活動しています。

磐田市立総合病院から



看護部長
中村 さつき

つながる会は地域に住む患者さんが安心して過ごせるように、施設同士が分かりあえる関係になって、地域の看護力を高めていこうということで始まりました。

互いの強みや弱みを紹介したり、抱えている課題を共有したりして、顔の見える関係からより強い連携につながっています。



薬剤部長
正木 銀三

病院薬剤師の顔の見える関係を構築して急性期から回復期・慢性期、在宅へと切れ目のない薬物治療の提供を目指しています。

施設見学をすることで互いに理解を深めたり、書類の書式を統一することで患者情報の問い合わせがよりスムーズになったりと効果が現れています。

-photograph-

つながる会で“つながる”キズナ



交流を重ねて笑顔で
話せる関係に

各施設を会場に
意見交換を実施



施設見学で設備の
違いもみえる



人事交流でより理解
と絆が深まる



-interview-

つながる会で“つながる”メンバー



わたしたちが働く訪問看護ステーションでは、利用者さんが安心して自宅での生活を送れるように、どのようなことが必要かを常に考えています。

これまでは関係施設とスムーズな引き継ぎができないことがありましたが、お互いに顔の見える関係になることで、以前より情報の共有がしやすくなりました。

同じ看護師でも役割や考え方が違うこともあります。利用者さんやご家族のことを中心に考えているところは一緒です。利用者さんに関わる人たちがいろいろな意見を出し合って、より安心な生活を送れるようにしたいです。

「顔が見えるから、
連携がとりやすい」

訪問看護ステーション
いわた
看護師
松浦 理絵さん



当院は回復期の病院になるため、急性期の病院から転院されてきたり、また在宅に戻られたりする患者さんの中間を担います。

これまでも施設間での連携はとてきましましたが、本当に必要な情報のやり取りができていなかったように思います。

いろいろな施設の方と意見交換することで、お互いの状況や知りたいことも分かるようになりました。情報を受け取る時も渡すときも、相手の立場に立って考えられるようになったので、引き継ぎがスムーズになりましたね。

今後は現場で働く看護師たちとも交流できたらいいと思います。

「受け入れも退院も
スムーズに」

すずかけヘルスケア
ホスピタル
看護師長
松山 佳奈さん

